



JAC北九だより

No. 94 (2021年 第1号)

公益社団法人 日本山岳会 北九州支部
kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行：公益社団法人 日本山岳会北九州支部
支部長 日向 祥剛
事務局：糟屋郡篠栗町尾仲 50-17
神 俊 一 方
TEL/FAX 自宅 092-947-3208
携帯 090-8416-4194
編集人：事務局 花田 拓二
印刷：山口県山口市水の上町 2-25
内 藤 製 本 所

令和三年
元旦



謹賀新年
丑

久住高原から阿蘇五岳の朝(涅槃像)

(写真 花田拓二)

新年のごあいさつ

令和の新年を迎えて

北九州支部長 日向 祥剛



会員の皆様には、明るく健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。新年の初日を山で迎えた素晴らしい会員も多い事と思います。

今年は『辛丑(かのとうし)』。痛みを伴う衰退と、新たな息吹が互いに増強しあう年』とのようです。会員皆様の強い意志と努力、我慢、工夫で、忌むべきコロナ禍を少しでも早く克服しましょう。ワクチンも開発され、普及して行くでしょう。マスクをして、三密を避け、コロナに感染しない様な、「新しい生活様式」を確立しましょう。

昨年はコロナ禍に振り回されました。宮崎での全国支部懇談会、九重での全国山の日も、そして北九州支部の20周年行事も、年次晩餐会まで中止せざるを得ない事になりました。非常に残念です。支部の通常活動も中止や縮小を余儀なくされ、我慢、我慢の年となりました。

今年は少しでも早く、「新しい生活様式」「新しい山岳会様式」を模索しながら、今年度の計画を進めて行きたいと思っています。会員の皆様の健康第一を願っています。

山岳会の意義は山に関心のある人が集まって、山の知識技術、経験をお互いに開示して、深めて行こうとするものです。それが、コロナ感染症対策の為、集まる事が難しくなったのですから、大変です。役員会、委員会、懇親会も十分に開催できず、総会も制限されました。

新しい山岳会様式、コロナ等の感染症対策としては、広い集会場で密にならない集まり、山小屋で囲炉裏を、囲んでの懇談や山の歌の合唱も注意が必要です。本部からも色々なパンフレット等で、注意が来ています。よく考え、確実に実行して、絶対に感染しない様に、拡げない様に対処しましょう。手紙、会報、電話、そして、新しい携帯電話、スマホ、パソコン、LINE等を十分に活用していかねばなりません。デジタル化が進んでいます。これを機会に大いに勉強し使いこなしましょう。新しい世界が広がります。

コロナに負けず、支部の企画、計画は担当の皆さんが、山の知識、技術、経験をもとに、知恵をしぼって、事前の下見も行なっています。ぜひ、積極的に無理をしないで安全に参加をして下さい。楽しく、気持ち良く参加すれば、山の知識、技術、経験も深まり、新しい世界が広がります。

一年の始まりです。今年も1歩でも高く、1つでも多く、1回でも多く山に登りましょう。そして山の写真を撮り、絵を描き、詩を読み、歌を歌い、版画を彫る、思い出を形にして残しましょう。山の歴史、風土、地形、気象、地形更に登山の歴史、日本山岳会の歴史も学びましょう。

会員皆様の意見を大切に、明るく、楽しい、前向きな、北九州支部を進めて参ります。よろしくお願いします。

最後に会員皆様の御多幸と北九州支部にとって輝かしい年となることを祈念して新年の挨拶とさせていただきます。

令和2年度 第4回 榎 有 恒 碑 前 祭

10月18日(日)

第4回 榎有恒碑前祭

14264 丹下 治



第4回榎有恒碑前祭 風師山 (写真 伊藤久次郎)

10月18日(日)

第4回 榎有恒碑前祭に参加して

16654 川村 隆真



第4回榎有恒碑前祭前日 森元会長歓迎会 (写真 伊藤久次郎)

門司の風頭(かざかしら)の頂上に榎有恒氏の記念碑がある。昭和33年10月28日、マナスル初登頂の報告を兼ね毎日新聞西部本社を表敬訪問された折、堤甚五郎氏(JAC永年会員)をはじめ地元岳人の案内で風頭に登られた際、地元の方々の求めに応じて詠まれたものと聞き及んでおります。その後も、榎氏と地元門司との交流は続き、風師山早朝登山100回記念登山(毎月1日、15日)に対し、「門司市民(北九州市制の前で当時は門司市)が100回の長きにわたり早朝登山を続けてこられた事に敬意を表します」との一文を寄せて頂きました。その日、連続100回皆勤表彰を堤さんが受けました。そして、1200回を越す記録をのこされました。来秋には1600回を迎えます。

今回はコロナ禍の為、規模を縮小して行いましたが、森武昭元会長、高木莊輔福岡支部長他21名のご出席頂きました。丁度秋の渡り鳥の季節でもあり野鳥の会の方々も興味を持って眺めておられました。又、森氏は三角山(194m)にも登られたとの事です。昭和30年代頃まで毎日新聞(当時、山麓に西部本社があり)には通信手段の一つとして伝書鳩が飼われており、放たれた鳩は三角山上空を巡回して目的地へ向かったそうです。

式典も無事終了後、森氏が矢筈山(266m)へ足を伸ばしたいとのご希望で、支部関係者も同行する事となりました。矢筈山管理者である青木氏に、かつて日本陸軍の堡塁跡の案内していただき「兵どもが夢のあと・・・」に想いを致しました。有意義な一刻でした。来年はコロナも退散し、盛大な祭典を切望致します。又、お祝いとして丁重なお祝辞を頂戴致しました東海支部の石原國利氏に心よりお礼申し上げます。

令和2年10月17日(土)、快晴の風頭山頂にて第4回榎有恒碑前祭が催された。新型コロナウイルスの影響で多くの山行が中止になるなか、森武昭元会長(神奈川支部)にもご参加いただき、会員にとって非常に有意義な時間となった。

碑前祭は、今春、日本山岳会北九州支部に入会した私にとって初めて多くの会員と出会う場となった。

また、慶應大学山岳部を今年卒業した身として榎有恒氏は大先輩であり、転勤で偶然赴任した北九州の地でこのような会に参加できたことに不思議な縁を感じずにはいられない。

碑前祭は日向支部長や森元会長の挨拶にはじまり、記念碑前で集合写真を撮り終了。新型コロナの影響で会は縮小した。その後、森元会長を含めた有志で矢筈山に向かい、山頂ではドラマのロケでも使われたという軍用トンネルなどを見学した。

知人のいない土地で、会社以外の人々と山を通して交流する経験は新鮮だった。そしてなにより久々の登山は楽しかった。山が繋いでくれた人の縁を大切に、継続的に山登りを続けたい。

来年の榎有恒碑前祭では慶應山岳部の後輩として「若き血」でも歌いましょうか。

日向支部長からご紹介いただき、今春北九州支部会員となりました川村隆真と申します。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

第4回榎有恒碑前祭 参加者

来賓2人 森武昭元会長 高木莊輔福岡支部長
 会員21人 園川陽造 日向祥剛 板倉健一
 伊藤久次郎 馬場基介 関口興洋 丹下治 榎俊一
 丹下香代子 竹本正幸 竹本加代子 森本信子
 縄田正芳 歳弘逸郎 縄手修 川村隆真
 支部友 網塚陽子 宇都宮浩
 ビジター 菱田哲郎 小田幸男 柳原武志

森武昭元会長歓迎会

参加者15人 森武昭元会長 園川陽造 日向祥剛
 板倉健一 伊藤久次郎 馬場基介 磯野文雄
 関口興洋 丹下治 丹下香代子 竹本正幸
 赤瀬榮吉 花田拓二 横山秀司 川村隆真



11月6日(金)～7日(土)

久住分かれ山のトイレ清掃登山 山のトイレ・環境を考える福岡協議会の 活動の一環として

13533 磯野 文雄



新しい避難小屋と携帯トイレブース2棟(左側) (写真 磯野文雄)

11月6日(金)から7日(土)にかけて、大分県自然保護推進室の「山のトイレをキレイに使い隊」応募の呼びかけ、山のトイレ・環境を考える福岡協議会(以下「山のトイレ協議会」)の運営委員の任務として、当会から、赤瀬榮吉自然保護委員長とともに参加し、久住分かれのトイレ清掃を行ってきましたので、久住分かれの避難小屋やトイレの現況等を含めて報告をします。なお、今回の登山の目的は、①久住分かれのトイレ清掃等②豪雨による登山道の確認③令和2年7月の豪雨災害やコロナ禍で宿泊者が減少した法華院温泉山荘別館(花山酔)の支援です。

当支部は、山のトイレ協議会の設立時からのメンバーです。設立の契機の一つは、英彦山の山のトイレの設置を推進する「英彦山の環境・トイレを考える連絡協議会」にあります。現在も、奥田スマ子会員等、当支部をはじめ各種の団体の尽力によって、英彦山の清掃登山が行われています。

山のトイレ協議会は、福岡県山岳連盟、福岡県勤労者山岳連盟、日本山岳会福岡支部、同北九州支部、個人会員、一般の山岳会などにより組織された山のトイレ問題を通じて、自然環境の保護を目的とする連合体です。近年の主な活動は、携帯トイレの普及にあります。

特に、久住分かれのトイレについては、①冬季は使用できない②多数の登山者が訪れるミマキリシマの咲くシーズンや紅葉シーズンは、大勢の利用者の使用に耐えられないこと、その結果として、久住分かれ付近に使用後のティッシュペーパーが散乱し、景観を阻害してしまっていることなど、いくつかの問題点を抱えています。

このため、署名活動をして5490筆の署名を集め、大分県知事あての要望書を作成し、他県の山岳団体に呼びかけて「くじゅう連山の山のトイレ問題を考える合同会議」を開催しました。署名用紙の作成から要望書の起草、合同会議の企画・進行を務めることができたのは、皆さんの協力があってのことと感謝しています。現在、久住分かれの避難小屋は改築され、その横に、二つの携帯トイレブースが設置されました。一昨日の大分県からの連絡によれば、11月末には、完成するとのことでした。

11月6日(金)午後12時に、長者原のビジターセンターに集合し、大曲からスガモリ越しの登山道を歩き、登山道の崩壊の状況を確認しました。スガモリ越に至る硫黄の採掘のための道路には、土石が流れ落ちており、長者原へと下る登山道は、通行止めになっていました。また、三俣山にはくっきりと土石流の跡が刻まれて、その恐ろしさを感じました。なお、スガモリ越から北千里が浜へは、降りられます。夕刻の会食では、法華院温泉山荘の弘蔵岳久さんのお話を伺うことができました。法華院温泉山荘から北千里が浜までの登山道が崩壊してしまったので、重機を借りて運転し登山道を通れるようにされたとの話は、胸を打ちました。

翌日の11月7日(土)午前8時に、牧ノ戸峠に集合し、大分県自然保護推進室から、水の入ったペットボトルを受け取り、久住分かれのトイレまで運搬し、清掃するという計画です。今回の山行には、「のぼろ」の大西記者も同行されて、次号(「のぼろ冬号」12/14頃発売)に今回の山行の記事が掲載される予定です。



今回の山行メンバー(他の会の会員を含む) (写真 磯野文雄)

当日の天気は、雨天・気温 16 度、登山の目的は、トイレの清掃ばかりではなくトイレの改善の進捗状況の確認もありますので、山行記録は山のトイレの観点から、報告をいたします。

まずは、牧ノ戸峠のトイレからです。牧ノ戸峠の改修は7月14日に完成し、男性用のトイレの小便器が4つに、大便器が2つから3つに増設されました。そして便器は全て洋式へと変更されています。女性用のトイレは洋式の大便器を5つに増設され、トイレ棟の屋根、壁が補修されて塗り替えられました。

次に、久住分かれのトイレですが、100円を入れているトイレ棟はそのままあります。先にも書きましたが、久住分かれの避難小屋は、11月末には完成します。その隣に、携帯トイレ用の専用ブースが2つ設置されます。携帯トイレは、各自が使用後に持って帰ることになります。今後の課題としては、回収ボックスの設置に向けた取り組みを推進していくこととなるでしょう。

蛇足ながら、先日、伯耆大山の6合目の避難小屋にある携帯トイレブースを見てきましたが、室内に、内袋(黒)、外袋(白)、凝固剤、手さげ袋(白)が置いてあり、これを利用した後に持って帰るようになっています。また、期間が限られますが、南光河原駐車場の公衆トイレ横と大山ナショナルパークセンターには、使用済みの携帯トイレの回収ボックスが設置されています。

北海道の山岳や石鎚山系、鳥取県の大山、九州においても高千穂の峰などには、携帯トイレのブースが設置され、下山後の麓で回収するというシステムが整って(整いつつあり)ます。皆さんが、何気なく利用している山のトイレには、様々な人々が、様々ななかかわりを持って、自然保護のために、ボランティアで、尽力していることに留意していただければ、と思っています。



大山六合目
避難小屋の
携帯トイレ
ブース内の備品
(写真 磯野文雄)

参加者 4人

自然保護委員長 赤瀬栄吉 磯野文雄

ビジター 福岡県山岳連盟理事長 山上司

福岡県勤労者山岳連盟事務局長 平田真介

西日本新聞季刊「のぼろ」記者 大西直人

9月26日

森林保全一斉巡視活動

「平尾台自然観察センター

外来種駆除活動」

15710 町元里香



平尾台 セイタカアワダチソウ駆除 (写真 竹本正幸)

午前7時半より平尾台自然観察センターの担当の方からセイタカアワダチソウの生態や駆除方法の説明を受け、現地に移動。8時半より小穴周辺の散策道の駆除活動を開始した。2人ごとにグループに分かれてセイタカアワダチソウを抜く作業を行う。背丈が私の背よりもはるかに高いものや、ツタが絡んだもの、場所によってはなかなか抜けないものもあり奮闘した。小穴周辺の作業終了後は中峠方面に戻りながら散策道の両脇を抜いていった。

途中で昼食の休憩を取り、午後からは腰の痛み、握力の低下と闘いながら1時間位作業を行う。散策道の見通しも良くなり、少し満足して作業を終了。自然観察センターに戻り反省会。セイタカアワダチソウの駆除は1回きりでは効果がないそうなので、今回作業した箇所は来年以降も数年続ける予定だ。それでも来年、いくらかは今年の作業の成果が残っていて欲しいと願っている。

参加者 10人 CL 三宅明子 SL 赤瀬栄吉 井上禮子
馬場基介 丹下洽 丹下香代子 竹本正幸
竹本加代子 縄手修 町元里香



10月4日(日) 皿倉山

国見岩 岩登り教室

14852 竹本正幸

9月13日予定の初級岩登り教室が雨天のため延期となり、当日の実施となった。コロナ禍での初めての月例山行となる。国見岩は今年に入って勤労者山岳連盟の方々が中心になってグレンデ周辺の草刈りやアンカーボルトの打ち替え等の整備をされ、明るく登りやすいグレンデになっている。国見岩は高度10メートルほどの岩場で、フェイス、カンテ、



懸垂下降バックアップの仕方 （写真 花田拓二）

ハングのエイドクライミング（アブミ使用）トラバース等初心者からベテランまで、いろんなルートを体験できる岩場です。会として国見岩で実施するのは、今回が初めてです。

皿倉山ケーブルカー山麓駅に11名が8時30分集合。グレンデまで約1時間30分の歩きになる。煌彩の森コースの途中からトラバースをしてケーブルカーの下を通り国見岩コースに合流する。塚本山行委員長と途中で合流。10時国見岩に到着するも、すでに勤労者山岳連盟関係者が15名ほど練習をしていた。「シマツタ先客がいた・・・」クライミングの準備をして、一番下のバランス岩まで下る。壁に張り付いている人、懸垂下降をしている人、ビレイヤーなどたくさんの人が練習中で混雑状態です。

バランス岩では、すでに5人が練習していたので、岩場があくまでロープワークをする。

30分ほどで岩場が空いたので、2班に分かれトップロープによるアップダウンで3点支持の練習と確保（ビレイ）を交代でする。

国見岩の上で眼下の北九州市を眺めながらの昼食をとっていると花田さんが合流。

西より乱層雲が近づき今にも降りそうになる。昼食も早々に登攀の準備をしたが、バランス岩では他のグループが懸垂下降の練習をしていたので、我々は緩い斜面を利用して懸垂下降、バックアップの取り方を交代で練習する。14時ころから雨が降り出したので練習を終了して帰る準備に取り掛かる。帰りは国見岩コースから稲荷



国見岩でのひととき （写真 花田拓二）

神社を通り下山する。

今回の練習は、中途半端に終わり不完全燃焼の感がある。人の少ない時にゆっくりと練習したいものです。

参加者 13 人 1 班 竹本正幸（CL） 赤瀬栄吉
太宰聖志 平野喜義 安藤匡
2 班 竹本加代子 縄手修 町元里香 清家幸三
中畑智子 宮本真希
写真班 花田拓二 見学 塚本久嘉



11月29日（日） 第3回山岳専科

平尾台で地図読み講習会

16601 藤原 玲子



分岐にて各自地図読み （写真 竹本加代子）

11月29日（日）平尾台で地図読みの勉強会がありました。登山の持ち物で、コンパスや地図は必須となっていますが、自分で使いこなせてないのが現状でした。

8時に平尾台自然観察センターに集合、それから皆で茶が床に移動し用意して頂いた地図を見ながら、磁北線の説明、記号、等高線（ピーク、コル、尾根、沢）の見方や、コンパスを使って2座（2つのピーク）から現在地の確認をするやり方等の事前講習を受けました。

いよいよ9時から地図上に設定されたコースを歩きます。

まず、コンパスで進行方向の確認です。

- ① 地図上で行きたい方向にコンパスの側面を合わせる。
- ② リングを回転盤矢印と磁北線が平行になるまで回す。
- ③ コンパスを正面に構え、回転盤矢印と磁針が重なるまで体ごと回り確認。

次は、地図と地形を照合しながら現在地を確認して進みます。ポイント、ポイントで説明を受けながら進んで行きますが北と南を間違えて整置しようとしていたり、最初はぐしゃぐしゃにしか見えなかった等高線が少しずつ分かるようになってきました。今回の講習で、コンパスの使い方と地形図の見方を教えて頂いた事で、登山道の

選択(この先の登山道がどうなっているかのイメージの仕方)や、現在地の把握の方法を学ぶ事が出来ました。竹本御夫妻、他の指導員の方達にもご指導頂き有難うございました。下山時にはススキがお日様に照らされ白く輝きとても綺麗でした。



権現山を背に (写真 竹本加代子)

参加者 6人 竹本正幸 竹本加代子 赤瀬榮吉
森本信子 町本里香 藤原玲子



11月19(木) ポレポレ会山行
(準提山・覚苑寺紅葉散策・長府歴史散策)
今期初めてのポレポレ会山行
北九515 里 耕三郎



準提山 (写真 伊藤久次郎)

9時半長府観光会館集合、覚苑寺駐車場に到着。参拝後境内の紅葉散策をしながら、長府毛利氏墓石のある墓所を通り登山口に。ここは三十三観音菩薩巡拝霊場入り口になります。登山道は階段でよく整備され45分で頂上広場到着。ベンチで休憩、展望は周防灘、玄海灘、遠く由布岳の景色を見ながら記念撮影をする。そのなかで、山名は準提なのか准胝なのかの話題になり昔は准胝、今は準提に変わったとの話で11時下山。25分境内を散策した。日光を浴びた紅葉の美しさに感動し、食事会場(維新ダイニング十楽)にて、昼食後長府毛利邸で日本庭園の武家屋敷造りの説明を受ける。そのなかで、当主一家の写

真に本妻さんと側室さんが一緒に写っており時代の変化を感じ驚きました。最後に駐車場や昼食会場の手配をして下さった方々に感謝です。

参加者 16人 会員 原広美(CL) 伊藤久次郎
井上禮子 高畠拓生 丹下治 武永計介
丹下香代子 大内喜代子 縄田正芳 太郎良嘉親
支部友 星出清美 里耕三郎 竹中信枝
米澤眞智子 田中眞一 田中陽子



12月12日(土)

玄海灘を望むゆったり山行

あらじやま

忘年登山 宮地獄神社と在白山(235m)

15138 縄田 正芳



宮地獄神社 (写真 伊藤久次郎)

コロナの影響で今年の支部忘年の集いは中止となり、記念山行のみの実施となりました。穏やかな天候にも恵まれた中、14人の参加を得てにぎやかで和やかな山行でした。山口方面では初めて聞く名の山で地域的にもなかなか行く機会のないところなのでよい機会ととらえ参加しました。また車で行く山行の多いところ、今回は電車が利用でき駅より歩いて行ける山は行き帰りともゆったりとできありがたいものでした。

10時過ぎに集会場所のJR福岡駅に着き福岡の街中を抜けて宮地獄神社駐車場へ。そこで車で来たグループと合流。リーダーより今日の山の予定の話の後、会員である横山先生より「プラタモリ的登山」のすすめに従い眼前に見える宮地山、在白山の地質(100m以上の高さは一億数千年前の硬い安山岩、100m以下の部分は一億年前の風化しやすい花崗閃緑岩)についての説明を受けいざ出発です。

駐車場を出てすぐに門前の店の間を抜け、階段を抜けると宮地獄神社です。振り返ると800mの参道が玄海灘までまっすぐに伸びるあの有名な眺めです。オオーと歓声が漏れます。2月、10月にはここより参道の先の玄海灘に浮かぶ相ノ島へ沈む光の道が見られる素晴らしい景色

だそうです。この時期多くの参拝者や写真マニアが集まり大変な賑わいだと言うことです。幅 2.6m、長さ 11m、重さ 3t と日本一と言われる大注連縄のかかる拝殿はすぐです。それぞれにお参りをすませ、ここで全員での記念撮影。その後まだカエデの紅葉が残る広い境内を通り抜けて宮地山へ向かいました。30分余りで山頂へ。ここは宮地嶽神社の古宮だということです。頂きは柵に囲まれたご神木のようなものが立っている少し開けたところでした。

宮地山をあとに在自山へ向かい、山頂直下の日当たりが良い斜面での昼食となりました。眼下には新宮の町そしてゴルフ場の松原、遠くに相ノ島とこの時期には珍しく穏やかな玄海灘が広がっていました。暫しのどかな風景をたのしみしました。在自山へは5分あまり、1時に到着。山頂は椿やマテバシイなどの林に囲まれて薄暗く展望もさかないところでしたが苔むした金刀比羅古宮があり古い歴史と何か神秘的なものを感じさせるところでした。山頂より西へ少し下ったところには鳥居がふたつ立つ展望所があり津屋崎の町が望め天候によっては遠く壱岐の島まで望めるそうです。帰りは宮地山方面へ今来た道に戻り、宮地嶽神社本殿の方へ帰りました。2時30分無事に神社駐車場へ到着。師走の何かと気ぜわしい時期でしたがのんびりとした余裕の山歩きが楽しめました。

今年はコロナの影響をうけ、年次総会を含め皆の計画された色々な行事が中止となり残念なことが多かった一年でしたが最後に忘年登山が決行されどうにかこの1年の締めが出来たような気がしました。幹事さんお疲れさまでした。また、参加者の皆さん有難うございました。

<コースタイム>

JR 福岡駅→宮地嶽駐車場 10:50/11:00 →宮地嶽神社→宮地山 12:00/12:05 →在自山斜面(昼食12:25/12:55) →在自山 13:00/13:10 →展望台 13:15 →宮地嶽駐車場 14:30



在自山にて全員 (写真 伊藤久次郎)

参加者 14人 会員 赤瀬榮吉(CL) 縄田正芳(SL)
日向祥剛 原広美 伊藤久次郎 井上禮子
関口興洋 武永計介 大内喜代子 竹本正幸
竹本加代子 横山秀司 支部友 星出浩美
竹中信枝 米澤眞智子 田中眞一 田中陽子



藤田傳氏 83歳

北九州支部10周年記念にて
(写真 伊藤久次郎)

追 悼

会員番号 13722

藤田 傳さん(93歳)

「天に昇った」藤田 傳さんを偲んで

14498 大 木 康 子

宇宙から地球が見えますか。
マグカップ片手に酎ハイ飲んでますか
「山はロマン」が口ぐせでしたね
いつもみんなを大切に思い、
仲間をほめながら酎ハイを楽しむ姿が目につかびます
傳さんと出会って 25 年
たくさんたくさん山歩きをしましたね
本当に楽しかった。ありがとう。
今は一度お別れしますけど
またすぐに会いましょうね。

ご冥福をお祈りいたします。

海外の山行歴

1997 年 2 月 南極
1997 年 10 月 アイランドピーク
2001 年 12 月 キリマンジェロ

個人山行

9月21日(月)～23日(水)

初秋の羊蹄山へ

15616 奥田 スマ子



羊蹄山山頂

(写真 奥田スマ子)

山名 羊蹄山

行程

9月21日 移動日 福岡空港～新千歳空港～倶知安

9月22日 倶知安～比羅夫登山口～羊蹄山～比羅夫登山口～倶知安

9月23日 移動日 帰路

昨年は天候が安定せず行く機会を逃した羊蹄山。今年もコロナ禍で諦めかけたけれども急に思い立ち行ってきました。

22日 5:00 まだ暗い比羅夫登山口を出発。樹間から見えるニセコアンヌプリや遠くの景色を眺めながら歩くこと5時間以上。10:20 ようやく山頂に到着しました。山頂からの展望は最高でした。近くは火口の荒々しさ。眼下に倶知安、京極の街並みが見渡せ、遠くには大地の絶景が広がっていました。昼食休憩を十分とり山頂からの景色を満喫して下山開始。久しぶりの百名山は下山中も楽しかった。そして15:30 登山口に下山しました。

今回の羊蹄山登山は山頂に吹く風も人々との触れ合いもやさしくて温かく、心癒された山行になりました。



羊蹄山登山口

(写真 奥田スマ子)

参加者 中畑智子 奥田スマ子



9月18日(金)～24日(水)

霊峰八海山 今日一日修験者になる

14853 竹本 加代子



八海山薬師岳をバックに

(写真 竹本正幸)

山名 八海山 燧ヶ岳 会津駒ヶ岳

アクセス フェリー レンターカー

行程

9月18日 フェリー<新門司港→泉大津>

9月19日 泉大津港→移動→宿泊(新潟県南魚沼市)

9月20日 八海山登山:ロープウェイ山麓駅(380㌦)

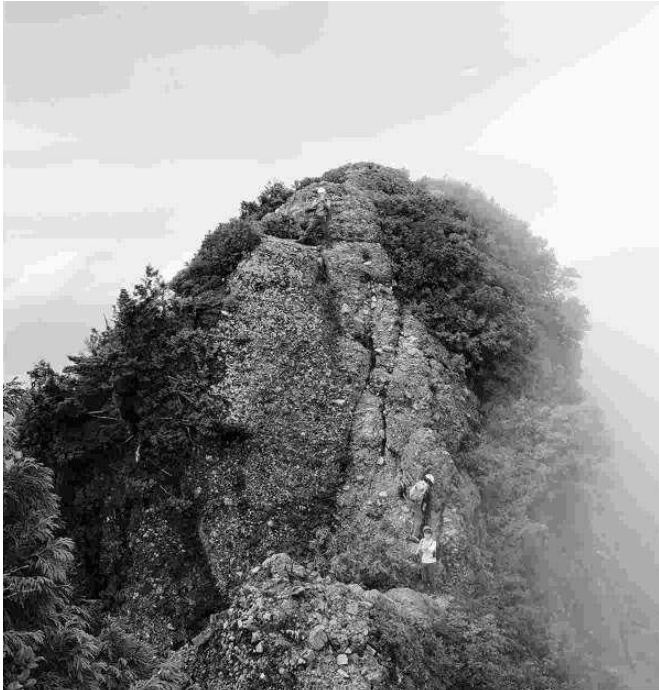
8:00→山頂駅(1150㌦) 8:37/8:50→薬師岳→千本檜小屋 11:00/11:20→地蔵岳 11:31→不動岳 11:37→<七曜岳・白河岳・釈迦岳>→摩利支岳 12:40→剣ヶ峰→大日岳 13:00→迂回路分岐 13:34 千本檜小屋 14:17/14:31→ロープウェイ山頂駅 15:58→山麓駅→檜枝岐村(民宿)

9月21日 燧ヶ岳登山→檜枝岐村(民宿)

9月22日 会津駒ヶ岳登山→日光湯元温泉(宿)

9月23日 男体山登山中止(観光)→移動→松本(宿)

9月24日 松本→移動→小倉



釈迦岳の下り

(写真 竹本正幸)

東北出発前の天気予報は芳しくなく、心おだやかでなかった。秋雨前線の停滞がひびいていた。コロナ禍というともあり移動には不安をもちつつ出発となった。

コロナ対策もマニュアルを作成し意思統一をする。手指の消毒はまめに。車中もマスク、車中で食事は取らない。SAはトイレのみ、食事はさけて気を付けた。天気も回復し明るい兆しも見えホッとした。

第一目的の八海山は昨年越しの夢でありその期待は裏切らなかつた。八海山は標高こそ低いが八つの峰が連なる岩稜である。聳え立つ頂きには垂直のハシゴあり、クサリありで、無心に登ったり下ったりの一日は修験者そのものだった。しかし、すっかり岩場に慣れた一日でもあった。ロープエー山頂駅最終にやっと間に合うというハプニングもあった。

2座目の燧ヶ岳山頂は生憎の小雨で期待していた展望は望めなかつた。長英新道を下山。尾瀬の小淵沢湿原は晴れ渡りのんびりと歩けた。沼山峠シャトルバスは余裕の乗車。

3座目の会津駒ヶ岳は樹林帯を抜けると、開放的な草原状の大地に木道が続き中門岳まで草紅葉と木道と池塘が心癒してくれた。雪解けとともに花咲き乱れる季節は最高だろう。

4座目は男体山登山を雨のため中止とした。いつの日か又登ろう。日光観光もまた楽しかった。山に感謝！

仲間へ感謝！の東北山行でした。※東北の山の日帰り登山は意外にも人が多かった！



会津駒ヶ岳山頂

(写真 竹本正幸)

参加者 6人 竹本正幸 縄手修 町本里香
藤原玲子 太郎良嘉親 竹本加代子



10月31日(土)

360° 最高の展望を楽しんだ塔ノ岳

北九530 安 藤 匡

山 名 塔ノ岳

登山口までのアクセス：自家用車で大倉登山口の民間駐車場まで移動（公共交通機関の場合：小田急沢沢駅からバス）

コースタイム：大倉バス停発 6:53 → 観音茶屋 7:21 → 見晴茶屋 7:42 → 駒止茶屋 8:08 → 花立山荘 9:21 → 金冷し 9:42 → 塔ノ岳 10:04/11:11（昼食・休憩）→ 木ノ又小屋 11:38 → 新大日 11:57 → 政次郎ノ頭 12:24 → 竜神の泉 14:36 → 大倉バス停 15:05



塔ノ岳山頂（バックは富士山）

(写真 安藤匡)



塔ノ岳の先にある檜洞丸と南アルプス (写真 安藤匡)

秋の週末、神奈川の自宅に帰省がてら、丹沢の塔ノ岳に高校の同級生と登ってきました。塔ノ岳は丹沢の代表的な山の一つで、標高 1491 ㍎、相模湾を南に見下ろし、西には富士山、東に横浜から北東に広がる関東平野を見渡す位置にあります。

3 連休の初日で、関東ではゴールデンルートの塔ノ岳ということもあり、登山口の大倉界隈の駐車場もすでに満車寸前でした。登り始めてからもトレランのグループも含め、登山道は結構な密度でした。

バカみたいに長い階段が続く尾根であることから通称バカ尾根と呼ばれる大倉尾根を辿りましたが、尾根の紅葉が日に照り映え、景色が綺麗なので飽きることがありませんでした。木々の間から朝日に輝く相模湾や伊豆大島、次には目的だった富士山も見え始め、霜柱やマユミの実、リンドウなど写真を撮っているうちに頂上…というくらいにコンディションに恵まれ夢中になれる最高の日和でした。

山頂からは、東から南にかけて、筑波山、新宿から湾岸に続く東京のビル群、横浜ランドマークタワー、三浦半島の奥に重なる房総半島、江ノ島、天城山、箱根から富士山、南アルプスは甲斐駒ヶ岳まで見晴らすことができました。西側には西丹沢のユースン溪谷を見下ろし、その先には富士という絶好の眺めを前に、広い山頂は早めの昼食を取る登山客で一杯。我々もその群れに混じって昼食とお茶をゆったり一時間かけて楽しみました。

ピストンはつまらないので、周回コースとして大倉尾根とは別の政次郎尾根を下りました。大倉尾根が 1 日二三千人の辿るゴールデンルートとすると、政次郎尾根は数十人？と思われるひと気の少ないルート。当然コース整備もそれなりで、大倉尾根のような整った登山道とは違いますが、踏み跡も明瞭で尾根を外さなければ迷うことのない道でした。戸沢山荘手前の渡渉箇所を超えるとそこから先は延々と続く林道です。いい加減飽きた頃に大倉バス停に繋がる風の吊橋が見え安堵。

下山後、鶴巻温泉駅前にある日帰り温泉『弘法の里湯』で汗を流して帰路につきました。

久しぶりに終日の晴天に恵まれた楽しい山行でした。



塔ノ岳軌跡
(地図 安藤匡)

参加者 2 人 安藤匡 友人



シリーズ 福岡の山のGeo

山の地質・地形とその成り立ち

第1回

福岡県で最も古い山は？

16382 横山 秀司

横山秀司 1948年神奈川県生まれ。1972年明治大学大学院文学研究科(地質学専攻)博士課程修了。博士(地理学) 1996年より九州産業大学商学部助教授・教授、2017年名誉教授。高校1年時に蝶ヶ岳(北アルプス)に登ったことにより、山の魅力に惹かれ、以後日本アルプス、ヨーロッパアルプスの山々に登り、山の自然や環境問題などの研究を行う。

5億年前、地球の表面は「 Gondwana 」とよばれる一つの超大陸でした。この Gondwana 大陸の一部の岩石が、福岡県内で最も古い岩石の山となっています。それは約4億9千～4億2千万年前(古生代のオルドビス紀～シルル紀)の斑れい岩石からなる畛原山(667m)です。斑れい岩は深成岩の一種で、陸上で噴火すれば玄武岩となる岩石です。この斑れい岩帯の南北には、4～3億年前(古生代後期デボン紀～ペルム紀)に変成作用を受けた蛇紋岩・変成岩帯(かんらん岩を含む)が付随しています。畛原山の北に位置する鉾立山(663m)、あるいは南に位置する龍王山(615m)がこの岩石からできています。鉾立山には猫峠から登ったことがあります。長い間の侵食作用によってゆるやかな尾根状となっており、頂上からの展望はほとんどなく、登山の魅力には乏しい山です。

また、これらの山の周囲には、玄武岩、かんらん岩、泥岩が低温高圧型の変成作用を受けた変成岩からなる西山(645

m)、犬鳴山(583m)、若杉山(681m)、立花山(367m)があります。また背振山地にもこれと同じ変成岩が、雷山(955m)から井原山(982m)にかけての地域に分布します。これは花崗岩質マグマによって押し上げられて残ったものです。これらの変成岩は三郡変成岩とよばれていますが、三郡山(936m)そのものは花崗岩からできています。

一方、北九州の戸ノ上山(517m)、足立山(597m)、筑豊の福智山(900m)、金国山(421m)は、古生代の3～2億年前に海洋プレートの上に堆積していた岩石が、海洋プレートが陸のプレートの下に潜り込むときに剥ぎ取られ、陸側に付加し、その後に隆起した岩石からできています。このような地質は付加体とよばれます。戸ノ上山と足立山は海成層の泥岩、福智山は海底の玄武岩、金国山はチャートからできています。なお、この時代の石灰岩からなる山もありますが、次回に説明します。

つまり、福岡県の古生代の山は、南半球にあった Gondwana 大陸の一部とそれに付加した岩石が、2億年前から分裂して現在の場所まで移動してきました。その間、何回かの造山運動によって隆起し、そして侵食されて約600～900mの山となりました。



約3億年前の玄武岩で形成されている福智山山頂

(2008. 5. 4 Yokoyama)



鷹取山(620m)からみた福智山(900m)

(2008. 5. 4 Yokoyama)



風頭(364m)から見た矢筈山(266m)と戸ノ上山(517m)

(2018. 8. 11 Yokoyama)

新聞切り抜きと画集 伊藤久次郎

毎日新聞 2020年(令和2年)10月31日(土)

【第3種郵便物認可】

山の版画集を自費出版

田川市の元警察官、伊藤久次郎さん
三十数年間に描いた183点収録

「元警察官で筑豊美術協会会員の伊藤久次郎さん(80)は田川市出身。飯塚署に勤務していた1986年に県内最高峰の釈迦岳を登り、飯塚郵便局主催の年賀状コンクールで入選。制作にのめり込んだ。画集には海外の名峰などこの間に登ったすべてを収録した。父の故郷・光さんは三井田川鉱業所の元職員で所内のアマチュアオーケストラ、三井田川交響楽団」の指揮者を長年務めた。

「多くの山に登ったが、一番好きな山は子どもの頃から眺めた『青春の思い出』と画集を手記す伊藤さん」

さん(80)は田川市に、趣味の登山を題材に三十数年間にわたって描いた木版画183点を収録した画集「青春の思い出」を自費出版した。

田川市出身。飯塚署に勤務していた1986年に県内最高峰の釈迦岳を登り、飯塚郵便局主催の年賀状コンクールで入選。制作にのめり込んだ。画集には海外の名峰などこの間に登ったすべてを収録した。父の故郷・光さんは三井田川鉱業所の元職員で所内のアマチュアオーケストラ、三井田川交響楽団」の指揮者を長年務めた。

め、80歳の時にその生涯がテレビで全国に紹介された。画集は父にあやかり傘寿の記念に発行。「山のおかげで版画も苦もなく続けられた。生きている限り彫り続けたい」。希望者には2500円で頒布する。伊藤さん(0947・42・2772)。

【伊藤和人】

《版画同好会の紹介》

13499 伊藤久次郎

日本山岳会全国各地の支部にいろんな同好会がありますが、北九州支部にもそのひとつとして版画同好会があります。発足したのは自然の成り行きで、支部にルームが出来たのが幸いしているようです。自然と版画をしてみたいと言う仲間が集まってルームで私が教えるようになりました。発足したのは、多分2015年頃だったと思います。いくらか彫れるようになって小さな作品が作れるようになり、翌年の2016年8月、国民の休日である「山の日」が誕生しました。その山の日制定記念イベントということで、門司港レトロの旧門司税関ギャラリーで山の文化展を開催致しました。主催は勿論日本山岳会北九州支部、後援が毎日新聞社、北九州市、さらに北九州観光協会といったところで、版画同好会のメンバー6人も16点を出品致しました。

その翌年から場所を門司区大里のギャラリー・カフェ「柳庵」に移し、版画同好会主催の第1回山の日記念木版画展を2017年8月7日～12日の6日間開催しました。そして、今年はコロナで大々的にはできませんでしたが、第4回目の山の日記念木版画展を開催致しました。

現在、7人の仲間で月に2～3回午後1時から約2時間ルームで勉強しています。興味のある方はどうぞ。

1回500円です。

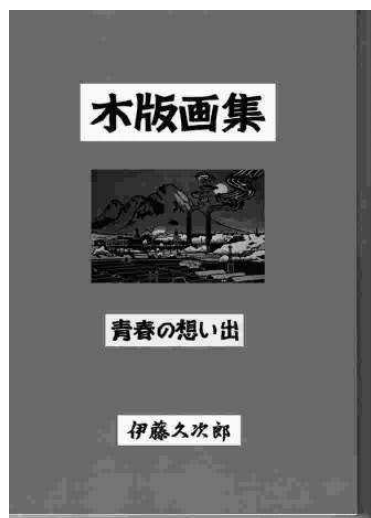


2月のご案内

●森林保全一斉巡視活動

～龍王山615.5㍍(飯塚市)～

- リーダー 榊 俊一
- 期 日 2月27日(土)
- 集 合 八木山花木園駐車場9時30分
(ダイヤモンドファーム八木山畜産センターの近く 0948-21-3612)
- 行 程 元青年の家登山口～龍王神社～龍王山
～八木山畜産センターへ下山 所要時間
約4時間
- 申し込み 三宅明子 090-1510-1311
メール akkorose.27@gmail.com
- 締 切 り 2月6日(土)
※ 登山口までは相乗りで移動します。
- 装 備 一般登山装備(防寒対策をお願いします)



伊藤久次郎 著 出版された木版画集

このページの新聞切り抜きは、毎日新聞社の許可を受けて掲載しました。

(複写して他の用途に使用しないでください。)

- 8 その他 腕章、森林保全巡視委員委嘱証明書を忘れずに持参すること。
- 9 備考 *巡視員登録者以外でも、参加歓迎します。寒梅会 (2/27) 中止により、この日に組み入れました。



●令和 2 年度 第 4 回 山岳専科 中止

令和 3 年 2 月 21 日 (日) にレスキュー (応急処置・救助等) をテーマに開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響 (人と人の接触が多くなるため) を鑑み、中止させていただきます。

担当 三浦 利夫 090-2850-6020



3 月 の ご案内

●英彦山 山開き 護摩焚き神事

- 1 期 日 3 月 7 日 (日)
- 2 集 合 中岳山頂広場
- 3 時 間 11 時 00 分集合
- 4 申し込み 不要
- 5 問い合わせ 塚本 久嘉 090-7475-6084
anzentozan@jac-kitakyushu.jp
- 6 内 容 登山届は各自で必ず提出の事。
昼食後、護摩焚きに参加、終了後解散します。
コロナ対策として、密を避けるため分散して登頂をお願いします。
山頂ではマスクを着用して下さい。
- 7 備 考 コロナその他で護摩焚きが中止の場合は中止します。



●ヤブツバキのカーペットの縦走路を歩く

小文字山 (366 ㍎) 足立山 (597.8 ㍎) 戸ノ上山 (517.8 ㍎)

- 1 リーダー 町元 里香
- 2 期 日 令和 3 年 3 月 14 日 (日)
- 3 集 合 場所 小文字山登山口
時間 午前 8 時
- 4 行 程 小文字山登山口～小文字山～足立山～戸ノ上山～寺内バス停
コースタイム 6 時間半～7 時間
- 5 申し込み 町元 里香
会員番号 氏名 住所 血液型 年齢
緊急連絡先を記入のうえメールで申込み
メール yunae.runa@docomo.ne.jp
- 6 締め切り 令和 3 年 2 月 28 日 (日) まで



●第 4 回指導員研修会

- 1 日 時 令和 3 年 3 月 6 日 (土) ～ 7 日 (日)
- 2 場 所 大分県立九重青少年の家
大分県玖珠郡九重町
- 3 集合時間 16 時 00 分
- 4 内 容 冬山訓練とレスキュー
- 5 締め切り 令和 3 年 1 月 20 日まで
- 6 連 絡 先 清家幸三 090-8664-4411



4 月 の ご案内

●由布岳 (1583.3 ㍎) 登山

- 1 リーダー 三浦利夫
- 2 期 日 4 月 11 日 (日)
- 3 集 合 正面登山口駐車場
- 4 時 間 午前 8 時 30 分集合
- 5 行 程 正面登山口～合野超～マタエ～西峰～東峰～マタエ～正面登山道登山口
コースタイム 6 時間程度
※ 西峰～東峰へのお鉢巡りは、天候等の状況により変更する場合があります。
- 6 携 行 品 一般登山装備
- 7 申 込 三浦利夫 (携帯 090-2850-6020)
- 8 締 切 り 3 月 21 日 (日) まで

●登高能力テストのお知らせ

- 1 日 時 令和 3 年 4 月 24 日（土）10:00 ～ 15:00
- 2 場 所 宝満山
- 3 集 合 九州登山情報センター 山の図書館
- 4 受 付 山の図書館前にて 10:00 から開始
- 5 方 法 時間 10 時～ 15 時
① 受付後に、各自で計測し登山する。
② 登頂時間を記録して、下山後、報告する。
③ 受付日 登山開始時刻と登頂時刻を記録する。
- 6 参 加 費 200 円
- 7 締 切 り 令和 3 年 3 月 31 日（水）
- 8 申 込 み 磯野文雄 090-4989-5961

●英彦山山頂トイレ清掃

- 北九州支部の皆様、ご協力お願いします。
当支部の掃除当番は、下記の通りです。
- 1 期 日 ① 2 月 10 日（水）
② 3 月 24 日（水）
*令和 3 年度の計画は未定です。
- 2 集 合 別所駐車場 9 時 00 分集合
- 3 申 込 み 参加できる方は、1 週間前に申込みください。
奥田スマ子 080-8589-0903



会 務 報 告

●ポレポレ会山行

令和 3 年のポレポレ山行を計画しています。コロナウィルスを吹き飛ばして、皆さんと和気あいあい登りたいものです。
ご参加ください。

- ① 1 月 7 日（木） 牛斬山「干支の山」初詣で中止
- ② 2 月 18 日（木） 六ヶ岳（338.9 ㍎）長谷観音
1 リーダー 里 耕三郎
2 集 合 九州道鞍手 IC 傍ナフコ駐車場 10 時
3 申 込 み 丹下 洽 090-3732-8843
4 締 切 り 2 月 4 日（木）まで
- ③ 3 月 25 日（木） 竜王山（小野田）観桜山行
山陽小野田市
1 リーダー 縄田 正芳
2 集 合 きらら交流館駐車場 10 時
山陽小野田市です
不明の方は JR 長府駅 8 時 45 分集合
原さんの車が先導します。
3 申 込 み 丹下 洽 090-3732-8843
4 締 切 り 3 月 11 日（木）まで
- ④ 4 月 18 日（日） 等覚寺
- ⑤ 5 月 20 日（木） 求菩提山ヒメシヤラ鑑賞
- ⑥ 6 月 3 日（木） 万年山ミヤマキリシマ鑑賞

※ 集合時間や行程についての問い合わせ先
丹下 洽 090-3732-8843

令和2年11月定例役員会 議事録

事務局

- 11 月定例役員会議事録
- 令和 2 年 11 月 7 日 作成者 清家幸三

- 1 日 時 令和 2 年 11 月 4 日（水）
- 2 場 所 北九州支部 毎日会館 6 階会議室
- 3 出 席 者 日向祥剛 丹下 洽 竹本正幸 榊俊一
三宅明子 丹下香代子 赤瀬栄吉
縄田正芳 縄手修 花田拓二
奥田スマ子 塚本久嘉 清家幸三
町元里香 馬場基介 関口興洋
- 4 欠 席 者 なし
- 5 議 題
(1) 会員の異動状況（事務局長報告）
①新入会員 通常会員 なし
準 会 員 なし
支 部 友 なし
②退 会 者 通常会員 13722 藤田 傳（物故）
準 会 員 なし
支 部 友 北九 512 宇都宮 浩
通常会員 60 人 準会員 2 人 支部友 42 人
会 友 4 人 合 計 108 人 （R2. 10. 31 現在）
(2) 会費納付状況 未納者：人（縄田正芳より報告）
通常会員 7 / 60 準会員 1 / 2 支部友 11 / 42
（R2. 10. 31 現在）
(3) 山行・行事報告
9 月 6 日（日） 第 2 回山岳専科中止

- 9 月 17 日（木） 万年山夏の野花ポレポレ山行中止
 9 月 19 日（土）～ 21 日（月） 傾山～祖母山
 （広島交流） 中止
 9 月 26 日（土） 森林巡視保全活動 10 人
 9 月 26 日（土）～ 27 日（日）
 支部合同会議（東京）
 1 人 Zoom 1 人
 10 月 2 日（木） 皿倉山観月ポレポレ山行 中止
 10 月 3 日（土）～ 4 日（日）
 全国支部懇談会（宮崎） 中止
 10 月 4 日（日） 岩登り国見岩 12 人
 10 月 7 日（水） 英彦山山のトイレ清掃 6 人
 10 月 10 日（土）～ 11 日（日）
 国東ロングトレイル
 広島交流登山延期
 10 月 18 日（日） 槇有恒祭 21 人
 11 月 3 日（火） ウェストン祭宮崎支部 中止
 (4) 山行・行事計画
 11 月 14 日（土）～ 17 日（火）
 台湾「玉山」支部 20 周年記念
 海外山行延期
 11 月 18 日（水） 英彦山山のトイレ清掃
 11 月 21 日（土） 東九州支部創立 60 周年
 東九州支部のみで開催
 11 月 29 日（日） 第 3 回山岳専科
 12 月 5 日（土） 晩餐会（東京本部） 中止
 12 月 12 日（土） 宮地山～在自山（忘年登山）
 2 月 12 日（土） 忘年の集い（ロイヤルホテル宗像）
 12 月 30 日（水） 英彦山山のトイレ清掃
 1 月 9 日（土）～ 10 日（日）
 坊がつるテント泊（雪山訓練）
 1 月 17 日（日） 第 3 回指導員研修
 (5) ポレポレ会
 11 月 19 日（木） 寛苑寺（長府）
 ポレポレ山行紅葉狩り
 12 月 3 日（木） 新年度打ち合わせ（忘年食事会）
 1 月 7 日（木） 牛斬山（干支の山初詣）

6 審議事項

- (1) 入会のご案内修正版を早期に作成する。
 (2) 北九州支部指導員規程変更の検討。
 竹本技術委員長より指導員研修会及び山岳専科の推移と意義について説明があり、指導員規約の改正について今後再検討する。
 (3) 20 周年記念行事の検討。
 開催日について、1 案 来年 5 月 12 日、2 案 来年 10 月 16 日、3 案 25 周年とする。の三案で採決した結果 3 案で承認される。
 次に 20 周年を内々でするか中止するかは中止して 25 周年を盛大にする方向で承認される。

- (4) 忘年登山日を 12 月 12 日に実施（忘年の集いと同じ）
 (5) 12 月 12 日の忘年の集いの開催（ロイヤルホテル宗像で開催）
 三宅総務委員長より GO TO トラベルの利用で実施することで承認される。
 その後、コロナウイルス関係で中止と決定
 (6) 写真展開催についての検討
 費用面がいくらかかるか、又、場所の問題もあり、具体案が提出された時点で検討することにする。
 (7) 博多サロン、小倉サロン開催は年内中止。（来年から開始予定）
 開始については各サロン担当者が状況を見て判断する。
 (8) 忘年の集いに使用するモンベルポイント使用の可否
 モンベルポイントを利用することが承認される。
 (9) 全国山岳古道調査の検討
 英彦山の修験道を提案する。
 (10) 定例役員会は 6 階の会議室を借り上げ開催予定
 （全員参加要請）
 （非接触物体温度計、役員用フェイスシールド購入済み）

7 その他

- ① 赤瀬さんよりトイレ協議会及び森林保全協議会の報告あり。久住山のトイレブースは完成したが、各自持ち帰りの方式で運営する。
 ② 本部発行の“山”に縄田さんの原稿を記載する予定。
 内容は広島支部との交流の記事。
 ③ 次回北九だよりの締め切りは 11 月末～ 12 月のはじめに提出すること。
 ④ 森林監視巡視活動年 2 回の一斉巡視活動内容の北九だより掲載原稿を本部山に掲載したいとの連絡あり、了解のもと山に掲載される予定。

以上

※ 次回役員会 1 月 13 日（水）18：00～ 予定



●会員の動向

(令和 2 年 8 月～令和 2 年 12 月)

新入会員

ありません。

退会者

- 1 北九 512 宇都宮 浩 小倉北区大阪へ異動
- 2 13722 藤田 傳 八幡西区 10. 15 物故
- 3 北九 467 俵 富士夫 遠賀郡水巻町

会員数 107 人

通常会員 60 人

支部友 41 人

準会員 2 名、会友 4 人

(令和 2 年 11 月 30 日現在)

●お知らせ

香春バイパスの新規開通

13643 関口 興洋

北九州から英彦山へのアクセスが便利になりました。
新規開通ルート：小倉から国道 3 2 2 号線の金辺峠トンネルを抜けて香春に向かうバイパスは、観音口橋まで開通していましたが、この度、1 億円のトイレで有名な「道の駅おとう桜街道」の手前まで繋がりました。これにより、香春町の狭い県道（5 2 号線）を通らずに直線ルートで抜けることになったのでお知らせします。

訂 正

北九だより 2020 年 10 月号（93-10 月号）の 2 ページ「指導員研修会」の中で講師名に誤りがありました。園川講師のお名前を「園川陽三」と記載しましたが正しいお名前は「園川陽造」です。
訂正するとともに、お詫びいたします。

● ホームページのアドレス

<http://jac-kitakyushu.jp/>

年間計画や月例山行などは
ホームページ から 申し込みができます。

「登山計画書」の 提出先は下記へ、
anzentozan@jac-kitakyushu.jp
ホームページは身近なものです

あとがき

コロナ禍の中で会議も自粛ムードになります。いつになれば野山を闊歩できるのでしょうか。活動しにくても心は明るく、朗らかでいたいものです。
年末年始、離れている家族に会うことも、ゆっくり話しをすることもできなかった方もおられたことでしょう。間もなく新年度、昨年できなかった事業や山行を思いっきりやりたいですね。春の芽吹きに合わせて行動できるよう準備しておきたいものです。 亀仙人

膝に酒のこぼるるに逢ひたうなる 山頭火
二人でふみゆく落葉あたたかし 山頭火

居酒屋
「コール天」

- 場所：小倉北区魚町1-2-23 松山ビル2F
- TEL:093-522-0565
- J R鹿児島本線 小倉駅南口から
- ※中央銀天街方面に向かい徒歩5分

※北九州支部は小倉サロンでお世話になっています

